学校番号	３００７

令和８年度　工業科（ファッション工学科）

教科	工業	科目	ﾌｧｯｼｮﾝ工学実習	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書							
副教材等	ﾌｧｯｼｮﾝ造形基礎(実教出版)						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ﾌｧｯｼｮﾝ工学実習は、テキスタイル、染色、縫製、パターンの基本を学習します。織物、染色、縫製＋パターンを２回、５回に分けトータル７回のローテーションで行います。テキスタイルでは織機の使用方法、基本組織の織り方を使用した制作を行います。染色では手切り捺染の基本操作染を使用し、顔料による制作を行います。縫製では工業用ミシンを使用し、基本となる原型スカートの制作を行います。パターンでは基本となる原型スカートを使用し、フレアスカート等への展開を行います。１年生における実習はﾌｧｯｼｮﾝ工学科の軸となる３分野の基礎となります。３年後、将来の目標へとつなげるように学んでください。また今後の座学における学習も振り返りながら制作しましょう。

2　学習の到達目標

(1)．　テキスタイルでは生地の理解から始まり、織物の基本的構造を学習し、作品への創造性の基礎を養う。また、織りにおける機材の知識と技術を身に付け、自ら思考し、適切な製作方法を判断し、表現する力を養う。また、主体的に取り組む態度を育成する。

(2)．　染色では染色に対する基本理解、捺染による基本操作方法の知識と技術を身に付ける。ラスタ系ソフトの技術を身に付ける。デザインした染色制作物の制作を通して、創造性を養う。また、自ら思考し、適切な製作方法を判断し、表現する力を養う。また、主体的に取り組む態度を育成する。

(3)．　縫製では手縫いの基本練習、工業用ミシンの職業用アイロンの基本操作の技術を身に付ける。原型スカート制作を通して、デザイン考案で創造性を養い、さらに、平面から立体へ空間認識能力を身に付ける。自ら思考し、適切な製作方法を判断し、表現する力を養う。また、主体的に取り組む態度を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ﾌｧｯｼｮﾝ工学に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解し、その技術を適切に活用している。	ﾌｧｯｼｮﾝ工学に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	ﾌｧｯｼｮﾝ工学に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
通年	織物	・織物の基礎知識 ・手機の構造 ・整経、整織	a:織物の基礎的な知識を理解できる b:手機の構造を考慮し、図案を考え、整織することができる。 c:織物の構造について自ら学び主体的に取り組むことができる。	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品
	染色	【顔料を使用した捺染による染色】 ・写真撮影 ・Photoshop による画像加工 ・Illustrator によるデザイン画の作成 ・手切りによる版作成 ・捺染 【浸染による染色】 ・３原色を使用したナイロンの浸染 ・色相環の作成	a: 基礎的・基本的な Photoshop 及び捺染の方法について理解し、実践できる b: Illustrator を理解し、創造的な表現に生かす工夫をすることができる。 c: 染色について自ら学び主体的に取り組む a: 基礎的・基本的な浸染の方法及び浸染について理解し、実践できる b: 作業を通して、安全に配慮し、正しい手順で適切に作業することができる c:染色について自ら学び主体的に取り組む	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品
	縫製	工業用ミシンの使い方 ロックミシンの使い方 手縫い タイトスカートの製作	a:基礎的・基本的な ミシン及びロックミシン・手縫いについて理解し、実践できる b:生地の特性を活かしながら、タイトスカートを作成する。 c:作品の完成度	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品
	パターン	・ 製図用語、基礎的技術、スカート原型を理解する。 ・フレアスカート、タックスカートに展開する。 ・ ギャザースカートをデザインし、展開する。 ・ シーチングで組み立てし、補正する。 ・ 補正後型紙を完成させる。	a:基礎的・基本的なパターンに関する用語・技術等を理解し、実践できる。 b:作業を通して、課題に対して解決に向け思考し、自ら作品表現ができる。 c:作品に対して自ら取り組み、自主的に調べた結果等を活かした作品表現を行っている。	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品	学習状況の観察 レポート 作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度